

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	2年次	6月	深水素子
授業概要 人間のもつ生殖能力の働きにより、生命が誕生するという経過を捉え、必要な看護や保健指導を学ぶ。また、正常な経過を促すために、異常の予防や早期発見に努め、より健やかな生活に向けた看護に必要な知識・技術を身につけるために設定した。						
到達目標 1. 正常経過にある妊産褥婦の身体的特性と心理・社会的特性について理解できる 2. 新生児の生理を理解し、胎内生活適応に向けたアセスメントおよび看護について理解できる 3. 妊産褥婦と胎児および新生児とその家族に対する看護について理解できる						
使用教材 テキスト： ① 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①，2018，第17版，医学書院. ② 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②，2018，第13版，医学書院. 参考文献等： ① 病気がみえる Vol. 10 産科，2014，第3版，メディックメディア.						
評価 筆記試験						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
12時間・6回	1. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の身体的変化 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児の発育とその生理 (3) 母体の生理的变化 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠とその診断 (2) 妊娠期に行う検査とその目的 (3) 胎児の発育と健康状態の診断 (4) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 4) 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦が受ける母子保健サービス (2) 妊婦の保健相談の実際 (3) 親になるための準備教育					講義
6時間・3回	2. 分娩期における看護 1) 分娩の要素 (1) 分娩の3要素 (2) 分娩の機序					講義

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	2年次	6月	深水素子
時間・回数	授業内容					方法
	2)分娩の経過 (1)分娩の進行と産婦の身体的変化 (2)産痛 (3)産婦の心理・社会的変化 3)産婦・胎児、家族のアセスメント 4)産婦と家族の看護 5)分娩期の看護の実際 (1)分娩第1期の看護 (2)分娩第2期の看護 (3)分娩第3・4期の看護					
6時間・3回	3.産褥期における看護 1)産褥経過 (1)産褥期の身体的変化 (2)産褥期の心理・社会的変化 2)褥婦のアセスメント (1)産褥経過の診断 (2)褥婦の健康状態のアセスメント 3)褥婦と家族の看護 (1)身体機能の回復および進行性変化への看護 (2)児との関係確立への看護 (3)育児にかかわる看護 (4)家族関係再構築への看護 4)施設退院後の看護 (1)育児不安と育児支援 (2)職場復帰					講義
5時間・3回	4.新生児期における看護 1)新生児の生理 2)新生児のアセスメント (1)新生児の診断 (2)新生児の健康状態のアセスメント 3)新生児の看護 (1)出生直後の看護 (2)出生後から退院時までの看護 (3)生後1か月健康診査に向けた退院時の看護					講義
1時間・1回	筆記試験（45分）					
備考						

